伝説の七つの島と湯山港

縄文時代　弥生時代　古墳時代　飛鳥時代　奈良時代　平安時代　鎌倉時代　室町時代　江戸時代　明治時代　大正・明治・昭和時代

古代の福部の海岸部は三方を半島や島で囲まれ、七つの島が点在する波静かな内海だった

・ 黄色の線で囲ってある部分が縄文・弥生・古墳時代の頃の福部海岸部にあった「島」を表す。

・水色の線は当時の内海の海岸線を表す

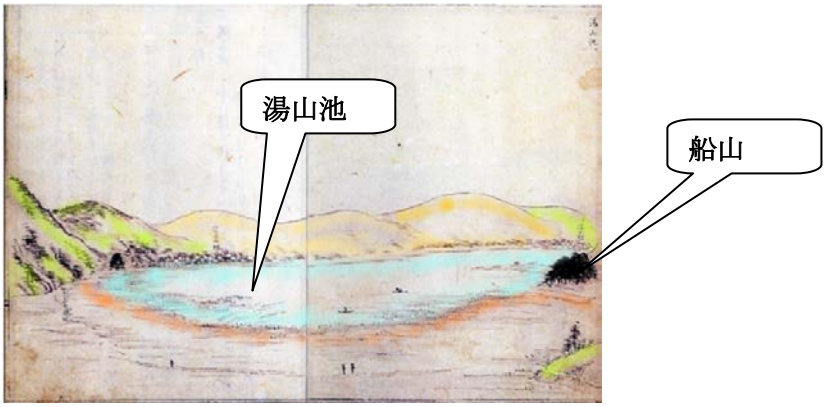
古代縄文時代以前は、福部の海岸部は駟馳山、立岩山、摩尼山標高３５０ｍ前後の山々に三方を囲まれ、内海の中には「安山岩岩質を主体とした岩礁」が点在していた。

時間をかけてこの岩礁の周辺に砂礫が堆積し、いずれ草木の茂る内海に浮かぶ島へとなって行ったと考えられる。

日本海から望む福部。

この平野に内海があり七つの島が浮かんでいれば良港の条件としては最適

島の名前	標高・岩石などの構成	写　真
海士島（あましま）	標高：２０ｍ ・海岸から沖合１．３ｋｍに浮かぶ岩石島。 ・島全体の形が「鯨」に似ているため、通称「くじら島」とも呼ばれる。 ・島は安山岩で形成。 ・島は過去何千年もの間日本海の荒波にさらされて今の形になったものであり、昔はもっと大きな島であったと思われる。	
一ツ山（ひとつやま）	標高：６１ｍ ・凝灰質集塊岩（ぎょうかいしつしゅうかいがん）*1が山全体を形成しているが、一部に安山岩溶岩も見られ。 ・海岸側のすそのの岩場には海食洞が形成されており、約１万２千年前の縄文海進*2 の残した跡といえる。	
二ツ山（ふたつやま）	標高：１０９．８ｍ（高） ８４ｍ　（低） ・安山岩の露頭*3もあり、山の基盤部は岩石で形成。 ・当時は独立した島であったと考えられる。	

台山（だいやま）	標高：６０ｍ ・二ツ山の手前の山で浜湯山集落の西側すぐに背後に控える山で、凝灰質集塊岩などで形成され、現在は砂で二ツ山と連なっているが、当時は独立した島であったと考えられる。	
旗立山（はたたてやま）	標高：４０ｍ ・浜湯山集落の北側直ぐ背後に控える山で、この場所は古砂丘*4・新砂丘*5 の末端部で安山岩質で形成。 古砂丘形成の頃は二ツ山などと同様に独立島であったと考えられる。 ・この島が「神功皇后」が湯山の港に寄港した際に軍旗をたてたとされる伝説の場所。	
船山（ふなやま）	標高：１０ｍ（１５ｍ） ・この山は、昔湯山池に突き出ていた山で、船の形に似ていたことから「船山」と呼ばれている。 ・現在は果樹園に造成しているため、標高は比較的低いが当時はもっと高い山であったと考えられる。 ・山の基盤部は凝灰質集塊岩などで形成され、果樹園造成時は固いため苦労したと言い伝えられている。	  安政５年・１８５８年「稲葉借景　無駄安留記」に書かれた当時の湯山池 の様子。 湯山池に突き出た「船山」が書かれている。

波多（はた）	標高：７０ｍ ・内海に浮かぶ島の中で最大の面積で、この島の南側に直浪（すくなみ）遺跡があり因幡地域東部で最初に人が暮らしたされる場所です。 ・５０００前の縄文時初期に朝鮮方面か南方方面から移動したことが推測される。 ・波多は前に波静かな内海があり、背後には広大な砂丘や森があり、砂丘からしみ出る水など生活をするには最適な土地であったと推測される。 ・この地が「福部」の始まりでその後、内海＊６沿いに高江方面や栗谷方面へと生活の場を拡大して行ったと考えられる	

＊１　凝灰質集塊岩
火山の爆発的噴火で放出された溶岩の、種々の破片が集合し、固結した岩石の内、特に火山弾を含む火砕岩を凝灰質集塊岩と呼ぶ。

＊２　縄文海進
日本では縄文時代にピークとなった海水面の上昇。

＊３　露頭
野外において地層・岩石が露出している場所。

＊４　古砂丘
おもに縄文前期から後期にかけて（６５００～３０００年前）形成された砂丘。

＊５　新砂丘
古墳期以降（１８００年前以降）に形成された砂丘。

＊６　内海
陸地と陸地との間に挟まれ、狭い海峡によって外洋と繋がっている海。